

## 第4学年2組 音楽科学習指導案

平成30年2月8日（木）公開授業Ⅲ

平成30年2月9日（金）公開授業Ⅱ

会場 2階-⑥（L 4年音楽）

授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校  
教諭 佐藤 史人

### 1 題材名 ふしづくり はじく音色で この一首 - 箏を使った旋律づくり -

### 2 本題材の価値

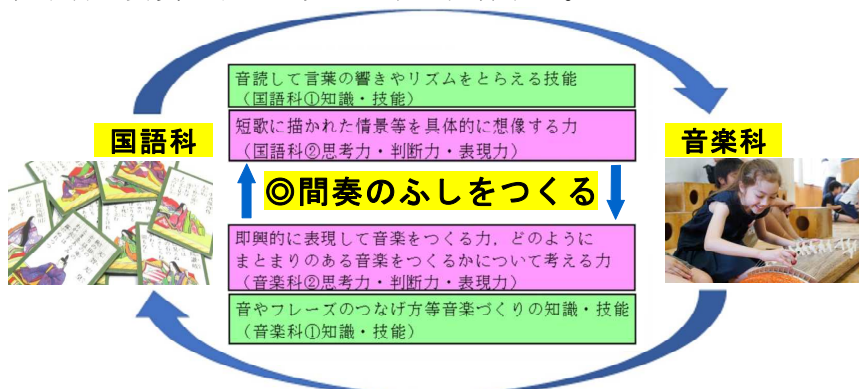
新学習指導要領では、我が国や郷土の音楽に親しみ、よさを一層味わうことができるよう、和楽器を第3学年及び第4学年でも取り上げながら学習の充実を図ることが求められている。

本題材は、『百人一首』を声に出して読んでみよう（国語科）「日本の音階で旋律づくり（音楽科）」の二つの学習内容を関連付けた。こうすることにより、表現力を豊かにしていくことができると考えたからである。

一次では、国語科で『百人一首』を扱った。短歌は、限られた言葉の中で、場面や情景を豊かに表現していることを学習する。短歌の世界観に浸った子どもは、二次の学習で国語科の資質・能力を発揮しながら、ふし（旋律）を考えることができるのである。

二次では、日本の音楽のよさを感じ取れる和楽器として箏（こと）を扱い、短歌（お気に入りの一首）のイメージに合ったふしをつくる学習を行う。最終的に、グループで歌い、演奏しながら「百人一首の歌」を完成させるのである。

本題材で子どもは、手事\*（以下：間奏のふし）を作品に取り入れる。間奏のふしを考える際に、国語科と音楽科の資質・能力を次のように発揮する。



「・・・（短歌の一節）と書いてある。これは、～（短歌の意味）ということを表したいから○ ○という音にして表現しよう」のように、短歌の言葉の意味と音楽を形づくっている要素（以下：要素）とを関連付けながらふしをつくり、つくりかえていく。このように、音楽科と国語科で育成する資質・能力を、子どもが教科等横断的に発揮して課題解決することができるようにしたところが本題材の価値である。

※手事（てごと）…日本伝統音楽の用語。歌の間に挿入された器楽の間奏部分。楽器の技巧を聴かせる箇所。歌の部分と同等あるいはそれ以上に重要視されている。

### 3 目指す姿

**要素の働きを生かした表現を考え、短歌のイメージに合った旋律をつくる子ども**

具体的には、「言葉による見方・考え方」を働かせて短歌の情景を感じ、「音楽的な見方・考え方」を働かせて、要素の働きを生かした音楽表現を考え、短歌のイメージに合ったふしをつくる姿。

### 4 働かせる「見方・考え方」

○「音楽的な見方・考え方」

音や音楽（音楽のモデル等）を、要素（旋律、フレーズ、反復、変化）とその働きの視点でとらえ、とらえたことと自己のイメージとを関連付けること

○「言葉による見方・考え方」

短歌の言葉の意味、働きに着目すること

### 5 育成する資質・能力

別紙、「指導計画」参照

### 6 指導の構想

これまでに子どもは、国語科で「『百人一首』を声に出して読んでみよう」の学習に取り組んでいる。音楽科の既習の題材「俳句に音楽を♪ - 日本の音階を使って旋律づくり パートⅡ -」を想起した子どもは、「百人一首」も音楽で表現したいと考え、グループで短歌（百人一首の中のお気に入りの一首）を選び、箏を使ってイメージに合うふしをつくり始めた。口唱歌\*を唱えな

※口唱歌…日本伝統音楽の用語。楽器の旋律またはリズムを口で唱えること。コロリン、シャシャテン等。

がらふしを工夫する姿，グループで役割（箏を弾く，歌う）を決めて演奏する姿等が見られた。前題材の作品と似ているふしではあったが，できてきた作品に，子どもは満足している。このような子どもに，次のように働き掛ける。

#### 働き掛け1

**音楽のモデルA（間奏のふしなし）と音楽のモデルB（間奏のふしあり）を提示し，感じたことを問う。**

音楽のモデルを比較聴取させ，要素（旋律，フレーズ，反復，変化）とその働きの違いによって，感じるイメージ（場面や情景等）が違うことに気付かせるための働き掛けである。

できてきた作品に満足している子どもに，音楽のモデルを2曲提示（演奏）する。この2曲は，歌と歌の間に間奏のふしがない曲（モデルA）と間奏のふしがある曲（モデルB）である。モデルAは，モデルBの間奏のふしをカットして演奏する。着目させたいのは間奏のふしの有無であり，2曲を比較聴取させることで「**音楽的な見方・考え方**」を引き出すのである。子どもは，「モデルAは『俳句に音楽を♪』のときと同じような曲だけど，モデルBは間奏のふしがあって日本らしい音楽だ」などと「**音楽的な見方・考え方**」を働かせ始める。そして，「間奏のふしがあると，短歌のイメージや雰囲気をもっと伝えられそうだから，間奏のふしをつくりたい」（**音楽科③態度**）と問いをもつ。

#### 働き掛け2

**どんな表現の工夫ができそうかと問い，工夫のアイデアを整理してから音楽づくりの時間を設定する。**

表現の工夫の見通しをもたせ，音楽づくりをさせるための働き掛けである。

問いをもった子どもに，どんな表現の工夫ができそうかを問う。とらえた要素の視点で表現の工夫を考えさせ，「**音楽的な見方・考え方**」を明確に働かせるためである。子どもは，「歌と同じふし（旋律，フレーズ）を箏で反復したい」「ふしを大きくしたり小さくしたりして表現（変化を表現）したい」などと「**音楽的な見方・考え方**」を明確に働かせる。工夫のアイデアを共有できるように板書で整理した後，音楽づくりの時間を設定する。子どもは，演奏したり歌ったりしながら表現を試していく。このとき子どもは，即興的に表現して音楽をつくる力（**音楽科②思考力・判断力・表現力**）を発揮する。

音楽づくりの場面では，学習シートに，「なぜその間奏のふしを考えたのか」について，理由や説明を書かせる。子どもは，「言葉による見方・考え方」を働かせ，短歌に描かれた情景や短歌に込められた作者の思いを具体的に想像する力（**国語科②思考力・判断力・表現力**）を発揮し，間奏のふしについて言葉で説明していく。

また，音楽づくりの過程で友達とアドバイスを合ったり（**協働性**），タブレット端末で録画して作品を確認したり（**ツール活用能力**）する。

#### 働き掛け3

**自分の作品を振り返らせ，中間発表会を通して気付いたことを問う。**

自分の作品と友達の作品とを比較聴取させ，作品をよりよく表現するための新たな工夫の視点をもたせるための働き掛けである。

間奏のふしを入れた作品がある程度できてきた子どもに，中間発表会を提案する。発表する際には，学習シートに記録した「なぜその間奏のふしを考えたのか」について，理由や説明を述べてから作品を発表させる。自分の作品を自覚させるためである。

子どもは，自分の作品と友達の作品とを比較聴取し，工夫のよさや新たな工夫の視点に気付く。中間発表会を通して気付いたことを問う。子どもは，「間奏のふしが反復されて，会話しているようでした」などと，友達の表現の工夫のよさや新たな工夫の視点を出し合う。そして，それらを生かしてさらに音楽づくりをしたいと考える（**音楽科③態度**）。

再び音楽づくりの時間を設定する。子どもは，新たな工夫の視点も生かしながら，どのようにまとまりのある音楽をつくるかについて考える力（**音楽科②思考力・判断力・表現力**）を発揮して，音楽づくりをする。また，新たな表現の理由等を学習シートに書く（**国語科②思考力・判断力・表現力**）。このとき，友達とアドバイスを合ったり（**協働性**），タブレット端末で録画して作品を確認したり（**ツール活用能力**）する。

#### 働き掛け4

**完成発表会を設定し，音楽作品の特徴を振り返りシートに記述させる。**

音楽づくりで発揮した資質・能力を自覚させるための働き掛けである。

子どもは，歌い，演奏しながら完成した「百人一首の歌」を発表する（**音楽科①知識・技能，国語科①知識・技能**）。このように，一連の学習を通して，**要素の働きを生かした表現を考え，短歌のイメージに合った旋律をつくる子どもになる**。また，振り返りシートに音楽作品の特徴を記述し，音楽づくりで発揮した資質・能力と，その結果どのような作品をつくることのできたのかを自覚する。

8 本時の構想<第2日目> 5/7時間 (45分授業)

(1) 本時のねらい (本時 5/7時間目)

「**音楽的な見方・考え方**」を働かせて表現の工夫に気付き、音楽づくりに生かすことができる。また、奏でるふしの響きや短歌の言葉から「**言葉による見方・考え方**」を働かせてイメージを広げ、短歌の情景や作者の思いを具体的に想像することができる。

(2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力	教師の働き掛け
<p><b>1 自分の作品を振り返り、自分の作品と友達の作品とを比較聴取する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくたちの歌のふしを繰り返すのがいいと思うな。</li> <li>・でもみんなが同じ工夫ではないと思う。</li> <li>・他にどんな工夫があるかな。</li> </ul> <p>・中間発表会だね。みんなはどんな作品かな。</p> <p>・間奏のふしなしと間奏のふしありの練習をしよう。</p> <p>・次は私たちの発表だ。上手く演奏したいな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きみがため」のふしを繰り返して、あげたい気持ちを表現しました。「若菜つむ」のふしも繰り返して一生懸命な感じを出します。その後間奏のふしで「シャシャテン」を高い音で繰り返して、歌より先に「雪が降りつつ」の場面を音で表現しました。聴いてください」(演奏)</li> <li>・(〇〇さんのグループの) シャ シャ テンを繰り返して雪の感じがしました。</li> <li>・(〇〇さんのグループの) シャ シャ テンで、歌より先に雪が降る様子を表現する工夫がよかったのでやってみたいです。</li> <li>・(〇〇さんのグループの) 歌のふしを反復していて、「あげたい」気持ちがこもっていると思いました。</li> <li>・(□□さんのグループは) 間奏で二面の箏を重ねて演奏していて、雰囲気が変わってよかったです。私もやってみたいです。</li> <li>・音の高さが違う表現が、話しをしているようで、参考になりました。 ☆音楽科③</li> </ul> <p><b>2 新たな工夫の視点を生かして音楽づくりをする。</b></p> <p>(以下：〇〇さんのグループの様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「シャ シャ テン」を二面の箏で演奏したらどうかな。どんどん音が増えるように。</li> <li>・いいね。ふしの追いかけっこだね。</li> <li>・そうだ。音もだんだん小さくしていったら、「雪が冷たい」って感じる様子が表せるよ。きっと外はまだ寒いんだと思う。</li> <li>・じゃあ「シャ シャ テン(八九 八九 十)」を大きく、小さく、と2回追いかけっこしてから、だんだん小さくなるようにふしを重ねていこう。 ☆音楽科②, 協働性</li> <li>・雰囲気が出てきたね。学習シートに記録しようタブレット端末で録画しよう。 ☆ツール活用能力</li> <li>・「シャ シャ テン(八九 八九 十)」を二面の箏で演奏する。大きく、小さく、と2回追いかけっこしてから、だんだん小さくなるようにふしを重ねて演奏する。音もだんだん小さくして「雪が冷たい」って感じる様子を表す。 ☆国語科②</li> </ul>	<p>◎自分の作品を振り返らせ、中間発表会を通して気付いたことを問う。【働き掛け3】</p> <p>○説明「昨日のまとめは、『間奏のふしは、イメージを強くするもの』でしたね。どんな表現の工夫をすると、短歌のイメージを強くする間奏のふしができるのかな」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>イメージを強くするには、どんな工夫があるのか (学習課題)</p> </div> <p>○説明「それでは、中間発表会を行って、どんな工夫をしているのか聴き合いましょう。発表の時は、間奏のふしを入れる前の作品と、間奏のふしを入れた後の作品をどちらも演奏してください。少し練習時間をとります」</p> <p>※表現の工夫が参考になりそうな2～3グループを取り上げる。</p> <p>○指示「工夫したところの紹介は後でもらいます。作品を発表してください」</p> <p>※学習シートを配付する。 ※発表用の箏を用意する。</p> <p>○発問「友達の工夫した演奏を聴いてみて、気付いたことはありませんか」</p> <p>※出された工夫点や改善点を全体で共有できるように整理し、板書する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口唱歌のふしを反復する</li> <li>・間奏のふしで歌より先に場面を表現する</li> <li>・歌のふしを反復して気持ちを音でも伝える</li> <li>・二面の箏で音を重ねて場面を演奏する</li> <li>・音の高さを変えて鳴き声や会話を表現する (まとめの例)</li> </ul> </div> <p>○指示「新たな表現の工夫に気付いたようですね。気付いたことも生かして、音楽づくりの続きをしましょう」</p> <p>※必要に応じて、二面の箏が使えるように、近くのグループと相談させる。</p> <p>※グループを回りながら、新たな表現の工夫やその理由等を取り上げて価値付けたり、例として全体に紹介したりする。</p> <p>※様子を見て、できた作品(1～2グループ)を発表させる。</p>

(3) 評価

「音楽的な見方・考え方」を働かせて表現の工夫に気付き、気付いたことを生かして音楽表現を考え、演奏したり学習シートやタブレット端末に記録したりしている。「言葉による見方・考え方」を働かせて短歌の情景等を具体的に想像し、発言したり学習シートに記録したりしている（発言、演奏、学習シート、録画記録）。

4年音楽 ふしづくりに はじく音色で この一首		前時までの作品	2月8日（1日目）に考えた工夫
----------------------------------	--	---------	-----------------

入り口側列

あら井 しのすげ 荒井 信乃輔	男	①	嵐吹く 三峯の山の もみお築は 龍田の川の 錦なりけり 【平調子】 七十七十 十為為為為為斗 十十十十十 十十十十 八七十七十十十 十十十十十十	曲奏のふしは入れない。その分、前奏と後奏でイメージをつける。ずっと同じ音を連打していると、聞き手もあきてしまうから、音に変化をつける。
あむら けん 木村 怜	男	①		
しょうぶがわ ほん 菅蒲川 晴	女	①		
あらき しん 新木 心温	男	②	秋の田の かりほの庵の とまおあらみ わが衣手は 露にぬれつつ 【平調子】 十巾巾為斗 九八九十斗為巾 為斗十九八九 十九八七八	なるべく近い弦を鳴らすようにすることにした。そして、音のイメージを出すために、こうなりました。
こじま りな 小島 瑠奈	女	②		
やまもと けんたろう 山本 兼太郎	男	②	一二三四五六七 七八九九九八七	
いからし ほんか 五十嵐 晴香	女	③	ちはやぶる 神代も聞かず 龍田川 から紅に 水くくるとは 【平調子】 十九八七十 巾為斗十九八七 七六五四二 九八十九九八 巾為斗十九八七 同じ音の繰り返しは、何枚もの紅葉が散って、深い て、川が流れるを繰り返すことと同じ意味です。	私たちのイメージは、紅葉が散るイメージで上の句と下の句の間にこのイメージを入れようと思う。
こや じゅん 小屋 俊康	男	③		十、斗、為、巾の四つの音色を中心に使う。
ばば あさか 馬場 麻佳	女	③		前奏：巾為斗 為斗十 斗十九八
うきはら しゅうせい 上原 悠星	男	④	夕方の 光のどけき 春の日に しづ心かく 花の散るらむ 【平調子】 十九八九八 八七六七八七六 九八七六五 斗十九十斗為斗 六六五四四三(二一)	春の日に（間奏のふし） しづごころなく 花の散るらむ（後奏のふし）
つばき 翼 榎本 翼	男	④		工夫点：花の散るらむを繰り返す。音は小さめ。 イメージ：桜の花びらが散るイメージ。静かに優しく散る。

中央列

おおくら めい 大倉 萌衣	女	⑤	いにしへの 奈良の都の 八重桜 けふ九重に 匂ひぬるかな 【平調子】 九九為斗 八七六五七六六 五六八七六五 七七六七八八九 六五四三三三(二一)	(学習シート未提出)
こひだろ なつき 近藤 なつき	女	⑤		
たかはし くらら 高橋 くらら	女	⑤		
おやま こうせい 大山 昊誠	男	⑥	滝の音は 絶えて久しくなりぬれど 名こそ流れて なほ聞こえけれ 【平調子】 七六五四三二一 四五六七八五四三四五六七八七 五四二二二 四五六七四 三四五六七 四五五四七八斗為	口唱歌で：一二三 四五六 七八九 十巾 口唱歌：思いつくような感じで、いろいろな人が。一〜九 ブーンと思いついたのが、高い音で十巾
こすぎ こうたろう 小杉 耕太郎	男	⑥		
わたなべ ゆうき 渡邊 悠希	男	⑥		
おけだに ほなか 楠谷 花香	女	⑦	秋の田の かりほの庵の とまおあらみ わが衣手は 露にぬれつつ 【平調子】 三四五六七 七六五四三二一 五六七八八九十 巾為斗十十為斗 九十斗為巾為巾	・文字数を気にせず、短歌のイメージを高める。 ・イメージにそって高い音を使う。 イメージ：雨の日、そでが露にぬれている。 理由：雨や露のイメージを強くしたいから。 九八七六五 七八九十斗為巾 十斗為巾五六七八九十 巾為斗十斗為 九十斗為巾為巾
おの じゅん 小野 瑠	男	⑦		
たかの あつや 高野 あつや	男	⑦		
こじま あゆみ 小島 あゆみ	女	⑧	花の色は 移りにけりな いたづらに わが身世に経る ながめせし間に 【乃木調子】 巾為斗九十斗 為為斗十九八七 五六七八九 巾為斗十九八 二三四五六七八	文字数に関係なく、イメージを自然に弾きたいので、丸ごと全部変えた。 (斗九)(八)(九)(八)五六七八 巾為斗 為斗十 斗十九八 二三四五六七 二三四 三四五五六 五六七 (五七)(六八)(七九)(八十)(九斗)(十為)(斗山) 後奏：一二三四五六七八九十斗為巾
しらとり きな 白鳥 佐奈	女	⑧		
せいたか れの 瀬高 礼乃	女	⑧		

黒板側列

さいとう あかり 齋藤 安佳里	女	⑨	ほととぎす 鳴きつる方を 眺むれば ただ有明の 月ぞ残れる 【乃木調子】 十九八七七 六七八八七六五 五六八九七 七六五五六七八 八七九八七八七	さびしい。「月ぞ残れる」見えると思ったほととぎすが見えない。残念。 (このイメージを上上の句と下の句の間に、間奏のふしとして入れる)
なぐさ しんたろう 中込 駿太郎	男	⑨		
ほんま たいよう 本間 太陽	男	⑨		
さわぐち かな 澤口 佳歩	女	⑩	春過ぎて 夏来にけらし 白妙の 衣干すてふ 天の香具山 【乃木調子】 五六七八九 十十斗為斗十 九九八八七 六五四三三二二 四五五六四三二	上の句と下の句の間に、間奏のふしを入れる。 理由：より一層乃木調子が明るくなった気がするから。
まつかわ とあ 松川 和聖	男	⑩		
やまだ まくら 山田 桜楽	女	⑩		
しみず 咲喜 清水 咲喜	女	⑪	天の原 振りさけ見れば 春日なる 三笠の山に 出でし月かも 【平調子】 二二五四六 六六六六五四三 二二二四五(五六)(六七)(六七)(六七)(六七) 六五五五二二二 後奏：十九十斗為巾 一	(記述無し)
あきさ 彩人 見崎 彩人	男	⑪		
わかつき きち子 若月 咲智子	女	⑪		
たかさわ りゅうのすけ 高澤 劉乃介	男	⑫	ほととぎす 鳴きつる方を 眺むれば ただ有明の 月ぞ残れる 【平調子】 三三三四五 四四五六七七八 十九八七六 六六七八九九八 十九八七六六五	テッペンカケタカ ビビビビ 四 五五六七六五 (斗為)(斗為)(斗為)巾 クワクワクワクワ 七六七六七八七六
ほしやま ひなこ 星山 日向子	女	⑫		
ほんだ いおり 本田 伊織	女	⑫		